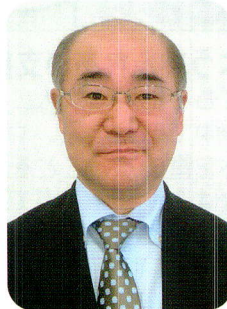




2017.2.10
第162号

「看却下」



会津教育事務所域内三支会連絡会
会長 松本 健男

教育委員をさせていただいて三年目を迎えます。たまたま前任者も酒造の社長さんだったので「教育委員会には酒造組合枠というのが一杯あるのか」などと冗談を言われておりました。そこで、お酒にまつわる話を一言。よく会議などで話のかみ合わない人同士を「水と油のような」とたとえますが、決して混じり合わない水と油にアルコールを加えますと水とアルコールは溶け合い、また、油とアルコールも溶け合いますので、いつしか混じり合わないはずの水と油とが仲良く溶け合うようになり

ます。私も、子供達・学校・教育委員会との間がスムーズに混じり合えるような潤滑油になればと考えております。自分が学んだ小・中学校に子供達が学び、そこでPTA活動などで学校を訪れると、当時の自分の学生時代の出来事がノスタルジックに振り返られて懐かしいものですが、そのような時のことを「看却下」という禅の教えで考えてみました。これは「足元を看よ」ということなのですが、足元を見るには頭を下げないと見えません。頭を下げて過去を振り返ってみ

ますと、素直に今までの自分を省みる自己反省ができ「今の自分はどうなのかな」と立ち止まれます。何事も最初に身に付けたこと、真っさら状態で触れたことなどはいつになってもすっかりと頭の中に焼き付いているものです。「二より習い十を知り、十より返る元の一」と言われるように初めの一步を感じられるように思います。

そして、前の姿勢に戻しますと正面を向き心を正すことにより「やるぞ」という気持ちと前向きな姿になれるように思えます。お互い自己を見つめ、その上で明朝に前向きに進みたいものです。時が過ぎ年齢を重ねても学校という所はいつも様々なことを教えてくれる所だと思えます。

発行
福島県市町村教育委員会
連絡協議会
北会津支会
北会津支会
北会津支会
北会津支会
編集
福島県教育庁
会津教育事務所
編集協力
小・中学校長会

各種受賞紹介

敬称略

□文部科学大臣表彰

- 学校保健及び学校安全表彰
会津若松市立東山小学校 学校歯科医 小三及三代大

- 学校給食表彰
猪苗代町立猪苗代小学校
会津若松市立第一中学校 栄養教諭 松谷 祐子

- 地方教育行政功労者表彰
前会津若松市教育委員会教育長 星 憲隆
前猪苗代町教育委員会委員長 岩橋 紀男
猪苗代町教育委員会教育長 土屋 重憲

- キャリア教育優良校表彰
柳津町立西山中学校

- 「地域学校協働活動」推進に係る表彰
北塩原村学校支援地域本部

- 優良PTA表彰
喜多方市立熊倉小学校父母と教師の会

- 子どもの読書活動優秀実践図書館表彰
会津若松市立会津図書館

□県教育委員会表彰

- 地方教育行政功労者
猪苗代町教育委員会教育長 土屋 重憲

- 学校教育功労者
喜多方市立第一小学校 校長 大場 健哉

- 社会教育関係功績顕著な団体・施設表彰
猪苗代町立猪苗代小学校父母と教師の会

○へき地教育関係功績顕著な団体・施設

- 猪苗代町立長瀬小学校

○優秀教職員

- 会津若松市立鶴城小学校 教諭 岩本 宏幸

- 磐梯町立磐梯第一小学校 教諭 古川 潔

- 喜多方市立松山小学校 教諭 峯岸 睦浩

- 福島県立大沼高等学校 教諭 本田 一弘

○「児童生徒（団体）の部」特別功績団体

- 猪苗代町立猪苗代中学校 女子バドミントン部

- 喜多方市立第二小学校 合奏部

□県学校関係緑化コンクール

- 《学校林等活動の部》

- 知事賞・福島民報社社長賞
会津若松市立湊小学校

- 教育長賞
会津若松市立川南小学校

- 《学校環境緑化の部》

- 知事賞・福島民友新聞社社長賞
磐梯町立磐梯第一小学校

- 教育長賞
会津若松市立大戸小学校

- 関東森林管理局長賞
会津美里町立本郷小学校

- 福島県学校緑化推進委員会会長賞
会津若松市立湊小学校

○福島県森林組合連合会会長賞

- 会津若松市立川南小学校

□県学校保健会表彰（学校保健功労者）

- 会津若松市立門田小学校 学校歯科医 遠藤 秀樹

- 湯川村立笈川小学校 学校歯科医 小久保俊一

- 猪苗代町立千里小学校 養護教諭 渡部 則子

□県学校歯科保健優良校表彰

- 優秀賞
会津若松市立大戸小学校

- 磐梯町立磐梯第二小学校

- 喜多方市立第一小学校

- 喜多方市立上三宮小学校

- 喜多方市立駒形小学校

- 湯川村立笈川小学校

- 湯川村立勝常小学校

□県学校給食会優良団体・功績者表彰

- 優良団体
会津若松市立湊小学校

□ふくしまっ子ごはんコンテスト（学校賞）

- 会津若松市立一箕小学校

- 猪苗代町立千里小学校

- 猪苗代町立緑小学校

- 会津坂下町立坂下中学校

- 会津美里町立新鶴中学校

「総務社会教育課だよ」 ～社会教育関係事業の紹介～

1 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業 ～ふれあいと絆をつくる 十七字～

本事業は、子どもと家族、子どもと地域の大人、子どもと子どもなど、家庭や地域における人と人のかかわりの中で感じた思いや願いなどを十七音で表現することをとおして、子どもの豊かな心を育成することをねらいとした、県教育委員会の重点事業です。今年度の応募総数は3, 847点で、会津域内すべての公立小中学校から御応募いただきました。ありがとうございました。



《主な入選作品》

【復興部門】

〈最優秀賞〉	五年たち 母の背だけに おいついて	会津坂下町立坂下南小学校	6年	星 杏奈
	五年たち ふきもみょうがも 食卓へ			母 星 博美
〈優秀賞〉	ぼくにはね ふるさとふたつ あるんだぞ	会津若松市立門田小学校	1年	遠藤 陽介
	浜育ち いまも想いは 波にゆれ			母 遠藤 朋子

【絆部門】

〈佳作〉	反抗期 テスト期間は 停戦中	会津若松市立第四中学校	3年	赤城すく 鈴
	願わくば テスト終わりが 終戦日			父 赤城俊一郎

2 地方創生総合支援事業 ～チーム会津で臨む防災力向上プロジェクト「守・破・離」～
会津地域防災力向上研修会

今後の災害に備え、防災体制の整備・充実を図るため、下記のとおり開催しました。

- (1)日時：平成28年11月17日（木）
- (2)会場：福島県ハイテクプラザ 会津若松技術支援センター
- (3)参加者：44名（行政担当者、町内会、教員、公民館職員等）
- (4)講演：「災害と情報」～熊本地震をきっかけに～
東洋大学 社会学部 コミュニケーション学科 教授 中村 功 氏



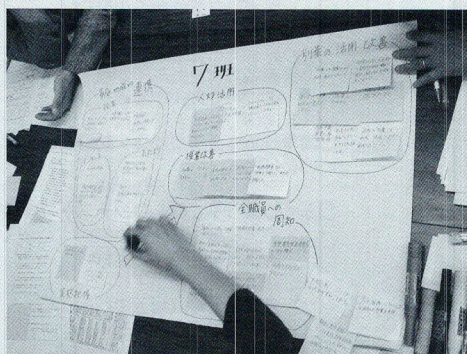
- (5)講義及び演習：
「東日本大震災の教訓はいかされたのか」
～熊本地震について防災シミュレーション教材
「さすけなぶる」をとおして考える～
福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
特任准教授 天野和彦 氏

「道徳教育推進事業の取組について」

県教育委員会では、道徳教育総合支援事業「ふくしま道徳教育推進プラン」として様々な施策を展開しています。今回は、その一環としての会津地区の二つの取組をお伝えします。

1 道徳教育地区別推進協議会

平成26～28年度の3年間のローテーションにより、今年度は、小・中・高校の教員39名、PTA4名の計43名の参加者で、推進校である会津若松市立湊中学校を会場に実施しました。



上越教育大学大学院早川裕隆教授の講話では、道徳の教科化に向けた動向や授業改善の視点について研修しました。推進校の実践報告及び授業参観では、教科化に向けた視点による授業実践及び家庭・地域との連携を図った取組について理解を深めました。校種別による研究協議では、道徳教育全体計画「別葉」及び「ふくしま道徳教育資料集」の効果的な活用方法等について話し合い、共有化を図りました。

2 「特別の教科 道徳」の実施に向けた地区別研修会

小学校で平成30年度から「特別の教科 道徳」が完全実施されることをうけ、改正学習指導要領の趣旨を実現するための視点や方策について、会津域内各小学校及び特別支援学校小学部の道徳教育推進教師を中心とした教員65名が班別協議を行いました。各校の成果や課題をもとに、教科化に向けた自校での取組の方向性を明確にしました。

二つの取組を通して、望ましい道徳性の育成のためのよりよい実践及び道徳教育推進体制の確立に向けた改善策を探ることができました。



「磐梯町幼小中一貫教育の新たなステップ」

磐梯町教育委員会教育長 田中 靖則

磐梯町は、これまで町内にある1つの幼稚園、2つの小学校、1つの中学校で連携型の幼小中一貫教育を進めてきました。一貫教育の柱として、幼稚園から小学校、中学校と学校段階に応じてオールイングリッシュで行う英語活動に力を入れて町独自の特色ある教育としてきました。

そのため本町の子どもたちは、「話すこと」「聞くこと」を通して英語に慣れ親しむ素養が身につけていることは大きな成果だと思っています。併せて、「読むこと」「書くこと」への子どもたちの知的欲求が高まっていることから、今後は4つの領域をバランスよく育む活動の段階へ移行するなど改善していく必要性も考えています。

また、幼小中一貫教育の基礎は早期の幼児教育にあるとの考えから、このたび町内の先生方と幼児教育及び「OECDによる生徒の学習到達度調査」

等で世界の最先端に行くフィンランドの教育視察をしてきました。これは、首長である町長が町の未来を展望した「町づくりは人づくり、人づくりは即ち教育」の理念の下、教育を町政の柱に据えた事業の一環として行われたものです。

首都ヘルシンキから離れた地方の町を視察の対象にしましたが、国が示したナショナルカリキュラムを基に磐梯町と同様の小さな自治体が幼稚園や学校と共にどのように独自色を出して教育を進めているのか等をつぶさに視察してきました。

これらの成果や改善点を踏まえ、我が町においては、幼稚園・小学校・中学校の12年間を通じて育成すべき資質・能力を各学校段階で共有するなどの一貫性を更に強め「磐梯町ならではの教育」の特色を一層明確にして、新たなステップの幼小中一貫教育を進めようと考えているところです。

我がまちからの情報発信

会津若松市教育委員会

会津若松市歴史資料センター「まなべこ」

会津若松市歴史資料センター「まなべこ」は、平成26年7月のプレオープンを経て、平成27年9月13日にグランドオープンしました。「先人に憧れ、郷土に誇りを持つ学びの場」をコンセプトに、会津の歴史を学ぶ入り口となるような、分かりやすく、親しみやすい展示や講座を行っています。

常設展示は年2回の展示替えを行っており、現在は「院内御廟を探る」をメインテーマとして、東山町院内にある、会津藩主とその家族が眠る墓所について展示しています。碑石の拓本や絵図、全長約5メートルにもなる、亀に似た神獣を模した石像の実物大の平面展示なども行っています。

企画展示室では、年に7回程の企画展を開催しており、2月7日からは、会津若松市史研究会による「新収蔵・公開資料展」として、市史研究会の活動内容や、今年度、解説・発見した史料の展示を企画しています。

「まなべこ」で開催している歴史文化講座は、専門職員による案内で身近な歴史に触れながら町歩きをする講座や、歴史や文化を学びながら工作をするワークショップ、講演会など、さまざまなプログラムで行っており、大人から子どもまで多

くの方々にご参加いただいています。

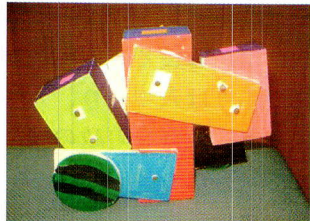
会津の歴史に関してもう少し詳しく知りたい時には、郷土に関する図書やDVDをゆっくり閲覧できる学習コーナーがあり、毎週火曜と金曜の午前中には、会津若松市史研究会の会員が直接、皆様の質問に対応します。ご希望の方には展示解説もいたしますので、受付でお気軽にお声がけください。今後も「まなべこ」を訪れる皆様が、楽しく、身近に歴史や文化に触れられるような展示や講座を企画してお待ちしています。ぜひお気軽にお越しください。



作品と指導

工作

『カラフルキーホルダーかけ』



会津若松市立小金井小学校
3年 青木 絢

様々な形の木を組み合わせて、キーホルダーかけを作りました。釘を金づちで打つ初めての学習でしたが、正しい道具の使い方を理解し、釘を工夫して使って木をつなげることができました。色付けも丁寧にできました。

指導者 一ノ瀬 幹

絵画

『サーカスのライオン』



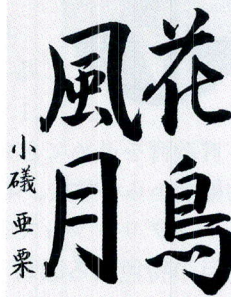
昭和村立昭和小学校
3年 本名 大地

物語「サーカスのライオン」の大好きな場面を表現しました。ライオンのたてがみを一本一本描いてふさふさな様子を、また中心に大きく描いてライオンの存在の大きさを表しました。周りのお客さんにも動きをつけ工夫しています。

指導者 石塚 隆 広

習字

『花鳥風月』



北塩原村立裏磐梯中学校
二年 小磯 亜栗

筆順の変化や点画の省略を確認して書きました。筆脈を意識したことで、流れのある字になりました。繰り返し練習して字形にも慣れ、全体のバランスの整った伸びやかな作品になりました。

指導者 星 美由紀

私の抱負

地域とともにある学校



金山町立
横田小学校
教 頭
仲川 重人

横田地域・横田小学校合同運動会は、地域の方々にご協力をいただき、学校、保護者、地域が一体となって実施されます。十五人の子どもたちは、多くの方々からご声援や拍手をいただくことで、達成感や満足感を味わい、大きな自信を得ることが出来ます。地域の方々に見守られていることが、子どもたちの落ち着いた学校生活につながっています。教頭として「地域とともにある学校」のすばらしさと、期待と信頼に応える責任の重さを実感します。本校では、校長先生の指導のもと、小規模校の特質を踏まえて一人一人をよりよく伸ばすための教育を推進しています。今後、さらに地域と組織の力が発揮されるように、誠心誠意努力していきたいと思えます。

芸術科の教員として



福島県立
喜多方東高等学校
教 諭
谷津田裕紀

私は、書道教室の先生や高校時代の書道の先生の影響を受け、書道の教員を志すようになりました。現在も月に二回、南相馬市にある書道教室に通っており、磨った墨の匂いに癒やされています。高校芸術の書道は、字を正しく整えて書く書写を基本にしなが、鑑賞等の活動を通して多様な書の表現方法や書の美しさを学びます。それを読み取り再現することで、豊かな心や表現力を身につけることができると思っています。初任者研修で多くの方々から教師としての姿勢についてお話を伺いました。芸術科の教員として情熱や信念を持って生徒と向き合い、常にアンテナを立てて学び続けることを忘れずに生徒たちと共に成長していきたいと思えます。

初心忘るべからず



会津若松市立
第三中学校
教 諭
松山 由佳

早いもので着任から十ヶ月が経ち、明るく素直でひたむきに物事と向き合う生徒と温かな心で関わる先生方や保護者の方々をはじめ、たくさんの方に支えられながら若松三中での生活に慣れてくることになりました。東日本大震災から、もうすぐ六年の月日が経とうとしています。当時、役に立ちたくても、何もできなかった自分の無力さや悔しさは忘れられません。今年度から、故郷のために「学校教育・学校体育」の面で関われる環境をいただけたことを心から嬉しく思っています。まだまだ未熟ですが、若松三中でたくさんの方々と吸収し、福島県の復興のために、未来をつくる子どもたちの教育に全力を注いでいきたいと思えます。